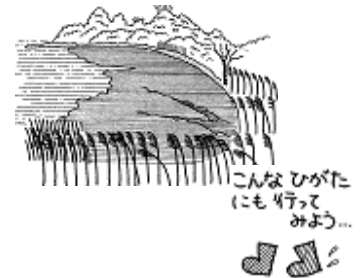


第6回「東京湾における干潟の役割」



講師：島村 嘉一氏(浦安市郷土博物館)
日時：2004年3月21日(日)7:00～18:00
場所：神奈川県各地(三浦半島～金沢八景)
参加者：20名



「東京湾の干潟」

連続講座「干潟を学ぼう！」の最終回は、「他の地域のさまざまな干潟や海岸を訪れ、改めて浦安の干潟の位置づけと今後の方向性を考えてみよう」をテーマに、神奈川県内の砂浜、干潟、磯を訪れました。

今回、浦安市郷土博物館の学芸員・島村嘉一さんに案内していただき、横浜市で唯一海水浴ができる人工海浜「海の公園」、三浦半島の南端に位置する「江奈湾」、環境を含めた地域指定として早くから天然記念物に指定された「天神島自然教育園」の3箇所の海岸を見学しました。



【案内人】
島村嘉一さん
浦安市郷土博物館
学芸員

海の公園横浜市金沢区海の公園

横浜市で唯一海水浴場のある海の公園は、金沢地先埋め立て事業の一環として整備された人工海浜で、砂は千葉県の上総から移入されました。この大量の砂を維持するために、地先に矢板をうって、砂の流出を防いでいるそうです。公園の面積は34.3haで、砂浜延長は約1km、砂浜幅は満潮時約60m・干潮時には約200mになります。また、横浜市内ということもあり、公園のすぐ近くまで住宅地があり、三番瀬と同じような都市型の海辺です。潮干狩りシーズンが始まったとはいえ、まだかなり寒かったのににもかかわらず、たくさんの人でにぎわっていました。

海の公園 1kmの砂浜に生き物が漂着



砂浜に打ち上げられたアメフラシ(左)と卵(右)



「海の公園」の生き物たち

人工海岸ですが、春先になると潮干狩りでにぎわいます。アサリをはじめバカガイ、シオフキ、カガミガイなどの二枚貝が自然発生し、ここ15年間で行われた調査では、26科53種の魚類が確認されており、その中でもマゴチ、マコガレイ、ギンボなどたくさんの稚魚たちを見ることができるそうです。砂浜に漂着した生き物を観察しましたが、アメフラシやその卵(写真)、アカクラゲ、アオサ、ワレカラがついたオゴノリなどの海藻、二枚貝やツメタガイなどの貝殻がたくさん打ち上げられていました。

参加者アンケートでは、「海の公園」をあらわすキーワードとして、人工的な砂浜、レジャー、単調、(まわりが陸で)狭い、手間とお金が必要、人工砂浜の成功例?、利用重視...などがあげられました。

三浦市江奈湾

三浦半島の剣崎の西側に位置する江奈湾は小さな干潟を有する入り江です。江奈湾に流入する川の河口にはアシ原が広がり、その先には砂泥の干潟が存在します。干潟というと広大なイメージがありますが、ここは後背湿地も100mほどで見渡すことができるコンパクトな干潟です。その中に生物たちがひしめき合っているというイメージがあります。

江奈湾の生き物たち

カニ類が多く、アシの根元にはアシハラガニ、砂泥の干出部にはチゴガニ、コメツキガニ、河口の湾筋(みおすじ)にはヤマトオサガニ、砂泥や転石の下にケフサイソガニが生息しています。以前魚類調査をしたときには、ボラやマハゼ、アカオビシマハゼなどのなじみの魚以外にも、アユの稚魚の遡上や、淡水のハゼの仲間ヨシノボリやウナギの稚魚、ヨウジウオの仲間のイシヨウジが確認されるなど、狭くて短い水系のなかで、淡水から海水の魚類が潮の満ち干によって移動するそうです。

江奈湾 干潟 畑の土の流出で茶色になっている?



河口部から広がるアシ原をぬけると、茶色の干潟が広がります。一見生き物がいないようにも見えますが、じっとしているとたくさんのヤマトオサガニが求愛のウェービングをしている様子が観察されました。干潟の上流にある供給源が水田から畑にかわってしまったため、畑の土が流出するようになり、干潟の色が茶色に変化したそうです。30cmほど掘ってみると、水田だった頃の（本来の）干潟の砂がでてきました。供給源がかわってしまうことで、干潟も変われば、生物層に与える影響もかなり大きいはずです。

江奈湾 アシ原もあります！



イシダタミガイ	ヒザラガイ	アマモ場
		

横須賀市自然・人文博物館付属天神島臨海自然教育園

三浦半島の相模湾よりある天神島自然教育園はハマユウの北限地としてよく知られています。この北限のハマユウは 1953 年に神奈川県天然記念物の指定を受けました。その後、1965 年に天神島、笠島を含む周辺海域 54ha が名勝天然記念物の指定を受け、横須賀市博物館の付属臨海自然教育園として管理されるようになりました。さらに、1999 年には神奈川県から臨海青年の家を譲り受け、展示室、講座室、図書室、研究室などを整備し活動の可能性が広がりました。

自然教育園を倉持さんに、ビジターセンターを田中さんに案内していただきました。

天神島が地域ごと天然記念物に指定・保護されたことにより、研究が進みさまざまなことがわかってきました。

ビジターセンター内に展示されていたウミウシの仲間(3種類、わかりますか?)



・ ハマダンゴムシやヒメハマトビムシなど沢山の虫が、砂浜に打ち上げられた海藻を分解し、海藻の養分を再び海に返している。このように、砂浜は海の生態系においても、重要な環境である。

でも、まだまだ未知なことがたくさんあります。今後、さらに詳しい自然の複雑な仕組みを解明していくには、天神島はもちろん、多様な環境が保護されていなければいけません。三番瀬も然り。

解説をしてくださった倉持さん自身も、深海の貝を専門に調べてきて、その起源をたどっていったところ、干潟にその起源がありそうだということがわかったそうです。しかし、日本で調査ができる条件を備えている唯一の干潟である有明海がつぶされてしまい、調査を続けられなくなってしまいました。科学的に分かることがあっても、その生物や生息環境が残っていなければ、それを証明することが難しいということでした。このようなことから、今後のために、干潟などの環境を残しておくことが必要であるということも、痛感されたそうです。

緑藻(マリモの仲間)のついた貝、スガイ



・ 磯についている緑色の海藻、ヒトエグサとアオサは、乾燥した環境への適応能力の違いから、アオサのほうがより水に近いところに生えている。

・ 火山豆石といって、火山が噴火した時に火口から 20~30 km のところにしかできない地層が見られる。(地層の研究をする上では、大変重要なもの)

・ スガイ(写真)という貝には、マリモの仲間である緑藻しかつかない。マリモは丸くて北方にのみ生息していると思われていたが、沖縄の久米島でも見つかっており、世界的にみても実は広い分布を持っている。

倉持さんのお話を聞きながら磯の観察をする参加者のみなさん



会員募集中

浦安自然まるごと探検隊は、会員を募集しています
お問い合わせのうえ、以下まで年会費をお振り込みください
千葉銀行 浦安支店 普通口座 3404140
年会費 一般会員 1000 円 賛助会員 一口 1000 円

郵便 〒279-0002 浦安市北栄1-1-16
浦安市市民活動センター気付 浦安自然まるごと探検隊
FAX 047-305-1722 (市民活動センター)
E-mail marugoto-tankentai@be.to
HP <http://urashizen.at.infoseek.co.jp>

* 本講座は、平成 15 年度浦安市市民活動活性化事業補助金を受けて開催されました。